

全国に広がるHondaの高校生交通安全教育活動 連載:第2回

他者への思いやりが安全運転には必要であることに気づいてもらう

ホンダでは現在、高校生交通安全教育活動を全国で展開している。前号(6・7月号)では自転車教育を取り上げたが、今回は原付通学者への安全運転教育を紹介する。バイクは高校生にとって利便性の高いモビリティの1つで、通学に利用している生徒もいる。そのため、こうした生徒たちにはバイクにきちんと乗せて、適切な教育を行う必要がある。ホンダが展開している教育は単に運転技術を学ぶのではなく、なぜ危険なのか、その危険を回避するためにはどのように運転すべきか、生徒自らが気づきながら習得するとともに、人に迷惑をかけるないようにする道徳心を育むものである。

事故を未然に防ぐための日常点検

兵庫県立西宮香風高等学校(兵庫県西宮市)は、1日4時間の授業が1部(午

前)・2部(午後)・3部(夜間)の3部で開講している多部制単位制高校である。5月23日、同校の2部および3部で通学に原付を利用している生徒を対象にホンダの高校生交通安全教育が実施された。同校の定金浩一校長は実施の背景を次のように話す。「当校では、職場での勤務を終えてから登校する生徒もいるため、バイクでの通学を許可しています。近年、数は少ないものの事故が起きており、生徒に安全運転教育をきちんとやっていかねばならないと考えていました。そうした時に、ホンダの交通安全教育のことを知り、取り入れたというわけです。交通安全教育を通じて、生徒には命の大切さについて再認識してほしいと思っています」。

指導は本田技研工業(株)安全運転普及本部鈴鹿普及プロックと、鈴鹿サーキット交通安全センターのインストラクターが担当。最初は日常点検について。インストラ

クターが「走る・曲がる・止まる」の3つ中で最も重要なのは何だと思えますか?」と問いかけると、生徒たちから「止まる」と声がかかる。「では、安全に止まるためには、走り出す前に何を点検する必要がありますでしょうか?」「ブレーキ」「タイヤ」と生徒たちが答えていく。「それだけでは不十分です。灯火と燃料も確認しておく必要があります。もし、ブレーキランプが点灯しなければ、後方から追突されてしまうことがあります。また燃料の残量が少ないと、それが気になり、不必要な脇見をして、事故を起こす危険があります。『燃料が少ないかな?』と思ったら早めに給油しましょう」とインストラクターが説明し、事故防止の観点から日常点検が重要であることを生徒に理解してもらおう。そして、生徒は各自で自分のバイクを点検した。

安全に走行するためには正しい運転姿勢が重要

実技の最初は低速バランス。まず、足を着地させずにゆっくり走り、約30m先のゴールに誰が一番遅く着くか競ってもらおう。その様子を見ながら、インストラクターが「ゆっくり走らせよう」とすると、車体がふらつかないように気をつける必要があります。そのためには、スクータータイプでは膝を車体からはみ出さないようにすること。そして、足は膝の真下にくるようにステップにのせ、つま先はまっすぐ前に向けましょう。このように正しい運転姿勢をとることで低速でのバランスがとりやすくなります」とアドバイスする。

最後の8の字走行。各々が単独で走るのはなく、1台ずつ順々に8の字コース内に入り、全員で走行する。バイクが交差する時は、アイコンタクトや手の合図をうまく使って、お互いがスムーズに通過できるように工夫してもらおう。他車の動きをよく観るとともに、思いやりをもって譲り合うことの大切さを生徒たちに気づいてもらおうねらいがある。「今日は、お互いに知り合い同士だからやりやすい面もあったと思います。しかし、実際の道路では知らない人ばかりです。こちらが優先道路を走っていても、必ずしも相手が止まってくれたり、譲ってくれるわけではありません。少しでも『危ない』と感じたら、徐行したり、止まってください。自分のことだけでなく、相手のことを考えることが安全運転には重要なのです」とインストラクターが締めくくり、この日の交通安全教育は終了した。

他車の動きを観て相手のことを考える

参加した生徒は「こうした機会は、免許を取ってからは初めて。安全運転をする上で、他者への目配り、思いやりが大切であることがわかりました」と受講して、道路を走っているのは自分だけではないということを改めて感じました。まわりのことをよく考えながら運転していきたいと思えます」とインストラクターのアドバイスが具体的にわかりやすく、楽しく学ぶことができました」と感想を語った。

生徒が受講している様子を見守った定金校長は「体験しながら学ぶことは教育効果もあると思います。判断や操作を誤つたら、自分の命を失ったり、他人に危害を及ぼすこともあるわけですから、バイクを運転するということを軽んじてほしくありません。今後は、こうした安全運転教育を受講することを通学許可の条件にしよう」と検討しています」という。

兵庫県内の高校で広がるホンダの交通安全教育

兵庫県内では今年4月から7月にかけて、約20の高校でホンダによる自転車と原付に関する交通安全教育が実施された。兵庫県企画県民部県民文化局地域安全課交通安全室の高延真一課長補佐は「これまで交通安全教育については各高校が独自で取組みを行ってきました。今年度は、教育委員会を通じて、ホンダの教育を紹介しました。県全体で展開してもらえるのは、たいへんありがたい。実施した高校ではいずれも好評なので、さらに拡げていきたいと考えています」と評価する。兵庫県内の指導においては、ホンダのインストラクターだけでなく、県民文化局交通安全室の前田義之さんと井上清徳さんも協力している。前田さんと井上さんは「自転車や原付の8の字走行など、ホンダの教育プログラムは運転する際には思いやりの心を持つことが大切であることに気づかせるという点で新たな手法だと思います」と話す。

今後、兵庫県内で普及が進み、学校と生徒が主体となった自主活動への発展が期待される。



インストラクターが正しい運転姿勢を説明



ブレーキ、タイヤ、灯火、燃料について生徒が各自のバイクを点検

膝や足のつま先が車体からはみ出していると低速でのバランスがとりにくいことを実感してもらう



低速バランスの練習を繰り返し、スタートからゴールまで全員がピタリそろって走行



5月22日にはHondaのインストラクターが西宮香風高等学校の全校生徒を対象に自転車教育(座学)を行った



コース内の他車の動きに注意しながら8の字走行を行う

8の字走行の途中では、インストラクターが8の字の交差する部分の道幅を変更。交差する際は、道幅の広いほうを走るバイクに道を譲る。道幅が同じになっている場合は、左側から来るバイクを優先させる